

皇學館大学 数理・データサイエンス・AI教育プログラム(リテラシーレベル)
自己点検・評価結果について

① プログラムの自己点検・評価を行う体制(委員会・組織等)

教育開発センター教育企画室会議	
(責任者名) 筒井 琢磨	(役職名) 教育企画室長

② 自己点検・評価体制における意見等

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点	
プログラムの履修・修得状況	全学部共通科目として「統計学基礎」のクラス【c】《データサイエンス入門》を開講した。 統計学基礎【c】 受講者数150名 単位修得者数134名(単位修得率89%)
学修成果	秀104名、優22名、良6名、可2名、不可2名、放棄14名 合計150名 秀 69%、優 15%、良4%、可 1%、不可 1%、放棄 9% ・オンデマンド型のオンライン授業であったので動画を100%視聴するよう指示しており、動画を全く視聴しない回数が5回以上となった学生は放棄の扱いとした。小テストにもコースニュースを見るように何度も指示したが、なかなか確認率が上がらなかった。 ・コースニュースを確認しない学生が一定数存在した原因として、同じく全学必修であり、オンデマンド型のオンライン授業である「伊勢志摩共生学」ではコースニュースを利用する頻度が低かったため、次年度からは「伊勢志摩共生学」でのコースニュースを積極的に利用し、相乗的に確認率が上がるように検討する。
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	・授業内容が3部構成となっており、部毎に理解度をアンケートで確認した。 ・理解度は高かった。教材の質が高いことが要因と考える。 【R4学修成果評価アンケートより】 1. この授業を受講して、第1部「社会におけるデータ・AI利活用」について理解できたと思いますか。 十分理解できた 77名 57% ある程度理解できた 55名 41% あまり理解できなかった 3名 2% 理解できなかった 0名 0% 2. この授業を受講して、第2部「データリテラシー(データの扱い方、データの読み方)」について理解できたと思いますか。 十分理解できた 69名 51% ある程度理解できた 61名 45% あまり理解できなかった 5名 4% 理解できなかった 0名 0% 3. この授業を受講して、第3部「データ・AI利活用における留意事項」について理解できたと思いますか。 十分理解できた 78名 58% ある程度理解できた 53名 39% あまり理解できなかった 3名 2% 理解できなかった 1名 1% 4. この授業を通じて、データサイエンス・AIを学ぶ意義を理解できたと思いますか。 十分理解できた 88名 65% ある程度理解できた 43名 32% あまり理解できなかった 4名 3% 理解できなかった 0名 0% ・今年度は選択科目であったので、関心がある学生、修得できる見込みがあると考えて履修する学生が多かったこと、次年度より全学必修となり、得意ではない学生が多くなることが予想され、同様のアンケートを取っても結果は変わってくる可能性があることが指摘された。例えば、学生がExcelが難しいと感じた時の解決方法について、窓口はあった方がよいことや、リアルタイムに助言できないのは難点であるが、LMSの掲示板における学生からの問合せには対応し、解決できていた。また、サポート体制はさらに整える必要があることや、今年度もExcelの作業は減点ではなく、加点で評価するとアナウンスを行っており、次年度も同様の形で進めて行く予定であることが確認された。
学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	・4件法で質問し「勧めたい」「どちらかと言えば勧めたい」と回答した学生が99%を占めた。 【R4学修成果評価アンケートより】 8. この授業の受講を後輩等他の学生に勧めたいですか。 勧めたい 101名 75% どちらかと言えば勧めたい 32名 24% どちらかと言えば勧めたくない 2名 1% 勧めたくない 0名 0%
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	1)令和4年度は「初年次ゼミ」最終回にて全学科アナウンス実施。 2)令和5年度から「データサイエンス入門」を学部共通科目必修として開設予定。
学外からの視点	
教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	1) 令和4年度は卒業生がいないため実施できず。 2) 将来、就職先企業等に対するアンケート調査(卒業生が就職して3年目の企業・団体を対象。就職担当・教育開発センターが実施主体、令和2、4年度実施)を利用できるか検討。
産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	1) 三十三銀行との連絡会議でご意見をいただくか検討。 2) 令和5年度以降は外部評価委員会でもご意見をいただくか検討。

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること	<ul style="list-style-type: none"> ・99%((83+50)/135)の学生が「十分感じた」「ある程度感じた」と回答した。 【R4学修成果評価アンケートより】 5. この授業を通じて、データサイエンス・AIを学ぶ楽しさを感じましたか。 十分感じた 83名 61% ある程度感じた 50名 37% あまり感じなかった 2名 1% 感じなかった 0名 0%
内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること	<ul style="list-style-type: none"> ・「十分わかりやすかった」「ある程度わかりやすかった」と回答した学生が98%を占めた。 ・Excelを用いた演習をうまく進めることができたかについて、「うまく進めることができた」「ある程度うまく進めることができた」と回答した学生は91%であった。他の回答と比べて少し苦戦した学生が多く、課題として認識している。 【R4学修成果評価アンケートより】 6. この授業の動画内容はわかりやすかったですか。 十分わかりやすかった 93名 69% ある程度わかりやすかった 39名 29% あまりわかりやすくなかった 2名 1% わかりやすくなかった 1名 1% 7. この授業で、Excelを用いた演習をうまく進めることができましたか。 うまく進めることができた 69名 51% ある程度うまく進めることができた 54名 40% あまりうまく進めることができなかった 11名 8% うまく進めることができなかった 1名 1% ・Excelに苦戦した学生が多かったことに関して、他授業「情報処理Ⅱ」等でExcelについて指導されていることが報告されたが、「情報処理Ⅱ」を履修していない可能性や、修得してから間が空いている学生も多いことが結果の一因として確認された。 ・Excelについて、動画で解説されている公式のソフトウェアではなく、代用品として出回っている類似の別のソフトウェアを利用している学生も多いことが指摘された。これに対して、令和5年度入学生からは学習端末必携化に伴い、当該ソフトをインストールしておくよう依頼していることが報告された。また大学から学生に配付しているGoogleのアカウントにログインし、スプレッドシートを利用すれば動画内で指示しているほとんどの作業は可能であることも報告された。